

外科的疾患ニ於ケル白血球ノ核移動， 遊走，速度並ニ貪喰機能殊ニ手術ノ 之レニ及ボス影響ニ就テ

其 6. 慢性蟲様突起炎

金澤醫科大學病理學教室(杉山教授指導)

金澤醫科大學石川外科教室(石川教授指導)

研究科學生 市 場 官 司

Kanji Ichiba

(昭和12年7月22日受附)

抄 録

余ハ前報マデニ急性蟲様突起炎並ニ之ニ續發セル急性腹膜炎時ニ於ケル術前術後ノ血液所見ニ就キ逐次報告スル處アリタリ。

本編ニ於テハ炎症竈自然の治癒ニ向ヒシ患者，即チ慢性蟲様突起炎患者ニ就キ，手術前後ノ血液所見ヲ檢索シ次ノ結果ヲ得タリ。

手術前ニ於テハ赤血球數ノ減少並ニ百分率ニ於ケル大單核球ノ増加ヲ認メシ外，其他ノ血液所見(白血球總數，核分葉數及白血球機能)ハ略々正常ナリキ。術後ニ於テハ輕度ノ白血球增多症及ビ核型左方移動ヲ來スト共ニ白血球機能ノ亢進ヲ來シ所謂進行性左方移動ヲ招來セリ。而シテ百分率ニアリテハ中性嗜好球ノ増加，淋巴球及ビ「エ」嗜好球ノ減少ヲ來セリ。然レ共之等ノ血液諸變化ハ一過性ニシテ術後ニ於ケル生理的發熱ノ消退ト共ニ速ニ恢復セリ。

目 次

緒 言	第3章 總括並ニ考按
第1章 實驗材料及實驗方法	結 論
第2章 實驗成績	主要文獻

緒 言

急性蟲様突起炎ノ一度ビ勃發スルヤ，手術的ニ之ヲ除去スルノ理想的ナルハ論ヲ俟タザレ共，病原菌ノ毒性或ハ個體抵抗力ノ強弱如何ニヨリ，急性蟲様突起炎モ non-Complicata ノ儘自然の治癒ニ向フ場合亦尠シトセズ。

然レ共一旦本症ヲ經驗セシ者ニアリテハ，何等ノ痕跡ヲモ止メズニ治癒スル場合極メテ稀有ニシテ，往々蟲様突起ノ肥厚或ハ周圍トノ癒着ヲ殘シ，從ツテ輕度ノ誘因ニ依リ容易ニ再發ヲ反覆スルハ今更贅言スルマデモナシ。

斯ノ如ク急性蟲様突起炎一旦治癒セシ後モ、尙ホ屢々再發ヲ繰リ返ヘセン慢性蟲様突起炎患者ニ就キ、之ガ間歇期手術前後ニ於ケル血液所見、即チ赤血球數、白血球總數、各種白血球百分率、白血球核移動及ビ白血球機能就中遊走、貪喰兩機能ヲ檢索セシヲ以テ茲ニ報告セントス。

第1章 實驗材料及ビ實驗方法

石川外科ニ於テ手術ヲ施行セン慢性蟲様突起炎患者6名ニ就キ手術前後ニ於ケル血液像即チ赤血球數、白血球總數、各種白血球百分率、中性嗜好球核移動ノ變化ヲ檢シ、併セテ中性嗜好性白血球機能就中遊走速度並ニ貪喰機能ノ變化ヲ檢索セリ。

而シテ檢索ニ使用セン諸方法ハ既ニ度々詳述セシカバ茲ニハ單ニソノ概略ヲ記スルニ止ムベシ。

1. 遊走速度測定。「ノイトラル赤超生體染色標本ヲ杉山氏加温箱(37°C)内ニ移シ約15分後ヨリ測定ヲ開始セリ。觀察セル細胞數、時間等ハ全ク前同様ニシテ、其遊走速度ノ平均値ヲ求め、分一「ミクロン」ヲ以テ表セリ。(正常人平均遊走速度：28.00 μ /分—30.00 μ /分)。

2. 墨粒貪喰試験。墨粒「ノイトラル赤超生體染色標本ヲ作り37°Cノ加温箱中ニ1時間放置後鏡檢セリ。貪喰度算定ノ標準ハ第1回報告ニ詳述セシヲ以テ省略ス。(正常人平均貪喰度：1.50—1.60前後)。

3. 各種白血球百分率及ビ中性嗜好性白血球核移動ハ血液塗抹標本ヲメイ・ギムザ2重染色ニヨリ檢セリ。(正常人平均核數：2.00—2.30)。

4. 赤血球數及ビ白血球總數ノ算定ニハ第1回報告ニ於ケルト同様ノ計算器並ニ方法ヲ使用セリ。

第2章 實驗成績

間歇期手術ヲ施行セン6名ノ慢性蟲様突起炎患者ニ於ケル術前術後ノ血液所見ヲ示セバ次ノ如シ。

第 1 例

患者 新川某 男 21歳。

1935年12月26日入院—1936年1月11日全治退院。

主訴 廻盲部鈍痛。

現病歴 本年8月蟲様突起炎ノ發作ヲ起セシモ醫療ニヨリ約20日間ニテ治癒セリ。其後モ數回ニ亙リ輕度ノ同様發作ヲ繰リ返セリ。

現症 廻盲部壓痛ノ他特記スベキコトナシ。(體温 36.8°C, 脈搏66)。

診斷 慢性蟲様突起炎。

手術 12月27日施行。蟲様突起所見、蟲様突起輕度ニ充血肥厚セリ。術式、蟲様突起切除並ニ全縫合。

經過 術後6日目 抜糸。15日目 全治退院。

血液所見 (第1表及第1圖)

赤血球數。術前赤血球數4,550,000, 術後1日目僅ニ増加シ4,600,000トナリシモ3日目ニハ再ビ減少シ4,500,000トナリ術前値ヨリ稍々減少セリ。8日目ハ變化ナク3日目ト同値ヲ示セリ。

白血球總數。術前白血球總數6,320, 術後1日目僅ニ増加シ9,920トナリシモ2日目ニハ7,200ナル正常數ニ復歸シ以後著變ナク經過セリ。

第1患者 新川某 男21歳

第1患者 新川某 男21歳

第1患者 新川某 男21歳

第1患者 新川某 男21歳

経過日数	赤血球數(万)	白血球總數	各種白血球百分率							中性嗜好性白血球核移動							中性嗜好性白血球食喰能							備考								
			觀察細胞數	中性嗜好	肥胖細胞	「エ」嗜好	淋巴球	大單核球	刺 ア ラ ス マ シ 及 胸	型	I	II	III	VI	V	平均核分葉數	觀察細胞數	型	I	II	III	IV	V		VI	平均食喰度	觀察細胞數	一	十	十	卅	卅
術前	455	6,320	200	56.5	0.5	1.0	34.0	8.0	0	12	52	32	4	0	2.28	100	型	I	II	III	VI	V	2.28	100	1	2	3	4	5	1.63	30.07	6日抜糸
術後1	460	9,920	200	75.5	0	0	19.5	5.0	0	30	40	30	0	2.00	100	型	I	II	III	VI	V	2.00	100	4	29	56	8	3	0	1.77	34.87	
術後2	-	7,200	200	72.0	0	1.0	20.5	6.5	0	16	50	28	6	2.24	100	型	I	II	III	VI	V	2.24	100	6	33	42	11	7	1	1.83	33.28	
術後3	450	6,920	200	70.5	0	1.5	22.5	5.5	0	16	42	42	0	2.26	100	型	I	II	III	VI	V	2.26	100	6	42	32	18	2	0	1.68	28.75	
術後5	-	6,600	200	64.0	0	1.5	28.5	6.0	0	13	54	31	2	2.22	100	型	I	II	III	VI	V	2.22	100	11	32	43	13	1	0	1.61	30.26	
術後8	450	6,730	200	66.0	1.0	3.5	24.0	5.5	0	8	57	30	2	2.20	100	型	I	II	III	VI	V	2.20	100	8	34	45	10	3	0	1.66	29.60	

各種白血球百分率。術前、中性嗜好球 56.5%、淋巴球 34.0%、「エ」嗜好球 1.0%、肥胖細胞 0.5%、大單核球 8.0%ノ出現率ヲ示セリ。術後1日目中性嗜好球ノ増加(75.5%)、淋巴球ノ減少(19.5%)、「エ」嗜好球及肥胖細胞ノ消失、大單核球ノ減少(5.0%)アリ。其後中性嗜好球ハ減少、淋巴球及「エ」嗜好球ハ増加ヲ辿リ8日目ニハ中性嗜好球 66.0%、淋巴球 24.0%、「エ」嗜好球 3.5%、肥胖細胞 1.0%、大單核球 5.5%トナレリ。

中性嗜好性白血球核分葉數。術前平均核數 2.28、術後1日目僅ニ減少シ 2.00トナリシモ2日目ニハ既ニ 2.24トナリ略々術前値ニ復歸シ以後著變ナシ。

遊走速度。術前平均遊走速度 30.07μ/分、術後1日目 34.87μ/分ニ増強、2日目モ尙ホ 33.28μ/分ナル充進状態ヲ示スモ3日目ニハ 28.75μ/分ナル正常範圍ニ歸シ以後著變ナシ。

食喰機能。術前平均食喰度 1.63、術後1日目 1.77ニ増加、2日目更ニ増加シ 1.83トナリシモ3日目ニハ 1.68ニ減少シ以後著變ナシ。

第 2 例

患者 川本某 男 24歳。

1936年2月10入院 - 2月26日 全治退院。

主訴 蟲様突起。

現病歴 昨年11月7日何等認ムベキ原因ナク心窩部ニ激痛ヲ訴ヘ該疼痛ハ漸次廻盲部ニ限局セリ(數時間後)、其ノ際發熱 38.5°C、嘔吐ヲ發セリ。冷罨法ヲ施シ約5日間テ輕快セリ。

現症 臍ト腸骨前上棘狀突起トヲ結ブ中間ニ抵抗ヲ感ズル他特記スベキコトナシ。(體溫 36.6C, 脈搏 64)。

手術 2月10施行。蟲様突起所見、蟲様突起肥厚シ輕度ノ充血アリ。術式、蟲様突起切除並ニ全縫合。經術後7日目抜糸。16日目 全治退院。

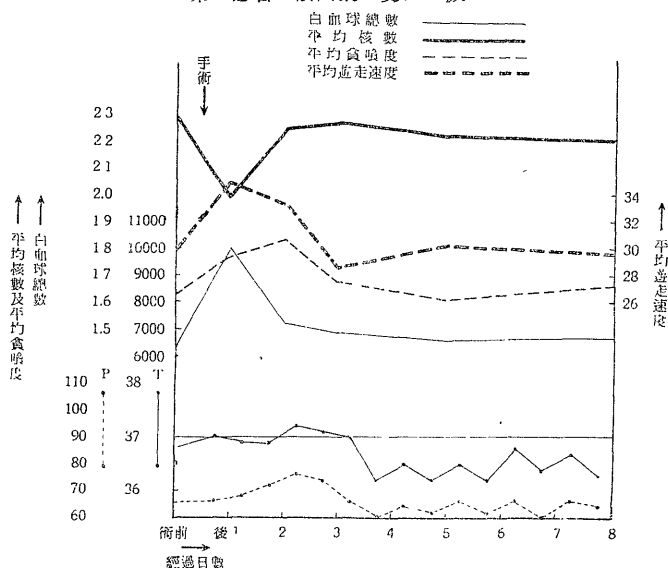
血液所見 (第2表及第2圖)

赤血球數。術前、赤血球數 4,600,000、術後1日目僅ニ増加シ 4,630,000トナリシモ3日目ニハ減少シ術前値ニ歸シ、8日目ニハ更ニ僅ニ減少ヲ示セリ。

白血球總數。術前、白血球總數 7,200、術後1日目 10,680ニ増加セシモ2日目ニハ 9,840ニ減少、3日目

第 1 圖 血液像並白血球機能

第 1 患者 新川某. 男. 21 歳.



ニハ 6.580 ナル正常數ニ復歸シ以後著變ナシ。

各種白血球百分率。術前，中性嗜好球 63.5%，淋巴球 24.5%，「エ」嗜好球 2.0%，肥胖細胞 0.5%，大單核球 9.5%ノ出現率ヲ示セリ。術後 1 日目中性嗜好球ノ増加 (79.0%)，淋巴球ノ減少 (16.0%)，大單核球ノ減少 (4.5%)，「エ」嗜好球ノ減少 (0.5%)，肥胖細胞ノ消失ヲ來セシモ之等ノ百分率ノ變化ハ 3 日目ニハ既ニ略々正常百分率ニ復歸セリ。

中性嗜好性白血球核分葉數。術前平均核數 2.16，術後減少シ 1 日目 1.96，2 日目 1.91 トナリ僅ニ正常範圍以下トナリシモ，3 日目ニハ 2.07 トナリ既ニ正常範圍ニ歸シ，5 日目ニハ 2.16 トナリ術前値ニ復セリ。

遊走速度。術前平均遊走速度 29.79 μ /分，術後 1 日目 34.40 μ /分ニ增強，2 日目更ニ 36.38 μ /分ニ增強セシモ 3 日目ニハ減弱シ 31.86 μ /分トナリ既ニ略々正常範圍ニ復シ以後著變ナシ。

貪喰機能。術前平均貪喰度 1.58，術後 1 日目 1.94ニ増加，2 日目モ尙ホ 1.86 ナル高値ヲ示セシモ 3 日目ニハ 1.60 ナル正常範圍ニ復歸シ以後著變ナシ。

第 3 例

患者 相木某 女 23 歳。

1936 年 2 月 4 日入院— 2 月 24 日全治退院。

主訴 下腹部ノ鈍痛。

現病歴 約 2 週間前ヨリ何等認ムベキ原因ナク下腹部ニ鈍痛ヲ訴ヘ，該鈍痛ハ深呼吸ニ際シテハ右季肋下部ニ感ゼラル。此ノ他下腹部緊張感並ニ廻盲部鈍痛アリ。

現症 廻盲部壓痛アル他特記スベキコトナシ。(體溫 37.0°C，脈搏 78)。

診斷 慢性蟲樣突起炎。

手術 2 月 5 日施行。蟲樣突起所見，蟲樣突起異常ニ長ク，輕度ノ充血アリ。術式，蟲樣突起切除並ニ全縫合。

經過 術後 6 日目 抜糸，19 日目全治退院。

血液所見 (第 3 表及第 3 圖)

第2表 血液像並ニ白血球機能 第2患者 川本某 男24歳

経過 日数	赤血球 数 (万)	白血球 总数	各種白血球百分率							中性嗜好性白血球核移動						中性嗜好性白血球貪喰能						中性嗜好 性白血球 平均遊走 速度 (分-μ)	備 考			
			觀察細胞 数	中性嗜 好	肥胖細 胞	「エ」 嗜好	淋 巴 球	大 單 核 球	「刺 戟 型 細 胞 」 「プラ スマ」 及	觀察細胞 数	I 型	II 型	III 型	VI 型	V 型	平均核 分葉數	觀察細胞 数	-	±	+	++			+++	平均貪 喰能	
術前	460	7.200	200	63.5	0.5	2.0	24.5	9.5	0	100	14	58	26	2	0	2.16	100	9	37	42	11	1	0	1.58	29.79	7日目抜糸
術後 1	463	10.680	〃	79.0	0	0.5	16.0	4.5	0	〃	28	52	16	4	0	1.96	〃	2	33	42	15	8	0	1.94	34.40	
2	—	9.840	〃	77.5	0	0.5	18.0	4.0	0	〃	31	49	18	2	0	1.91	〃	5	30	46	12	7	0	1.86	36.38	
3	460	6.580	〃	62.0	0.5	3.5	28.0	6.0	0	〃	26	45	26	2	1	2.07	〃	10	34	43	12	1	0	1.60	31.86	
5	—	6.800	〃	61.5	1.0	3.0	29.5	5.0	0	〃	17	54	25	4	0	2.16	〃	8	36	43	10	3	0	1.64	30.36	
8	455	7.000	〃	66.0	1.0	1.0	25.0	7.0	0	〃	15	51	29	5	0	2.24	〃	11	38	35	15	1	0	1.57	30.64	

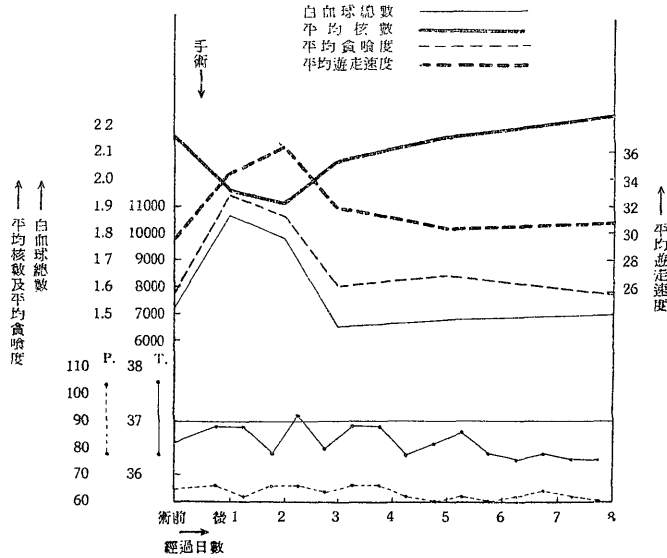
第3表 血液像並ニ白血球機能 第3患者 相木某 女23歳

経過 日数	赤血球 数 (万)	白血球 总数	各種白血球百分率							中性嗜好性白血球核移動						中性嗜好性白血球貪喰能						中性嗜好 性白血球 平均遊走 速度 (分-μ)	備 考			
			觀察細胞 数	中性嗜 好	肥胖細 胞	「エ」 嗜好	淋 巴 球	大 單 核 球	「刺 戟 型 細 胞 」 「プラ スマ」 及	觀察細胞 数	I 型	II 型	III 型	VI 型	V 型	平均核 分葉數	觀察細胞 数	-	±	+	++			+++	平均貪 喰能	
術前	433	6.360	200	64.5	1.0	1.5	21.5	11.5	0	100	21	53	23	3	0	2.08	200	7	37	49	5	2	0	1.58	27.80	6日目抜糸
術後 1	436	8.400	〃	81.5	0	0.5	10.5	7.5	0	〃	35	45	19	1	0	1.86	〃	4	30	54	10	2	0	1.76	34.38	
2	—	6.360	〃	68.0	0	1.5	24.0	7.5	0	〃	26	58	16	0	0	1.90	〃	3	37	39	17	4	0	1.82	32.43	
3	428	7.160	〃	74.5	0.5	0.5	17.0	7.0	0	〃	20	52	26	2	0	2.10	〃	6	55	26	9	4	0	1.50	29.60	
5	430	6.960	〃	70.0	0	2.5	22.5	5.0	0	〃	28	36	36	0	0	2.08	〃	11	46	29	13	1	0	1.47	28.01	
8	437	6.570	〃	58.5	1.0	3.5	29.0	8.0	0	〃	18	51	29	2	0	2.15	〃	8	40	38	11	3	0	1.61	30.27	

外科的疾患ニ於ケル白血球ノ核移動、遊走速度並ニ貪喰能、殊ニ手術ノ之ニ及ボス影響ニ就テ

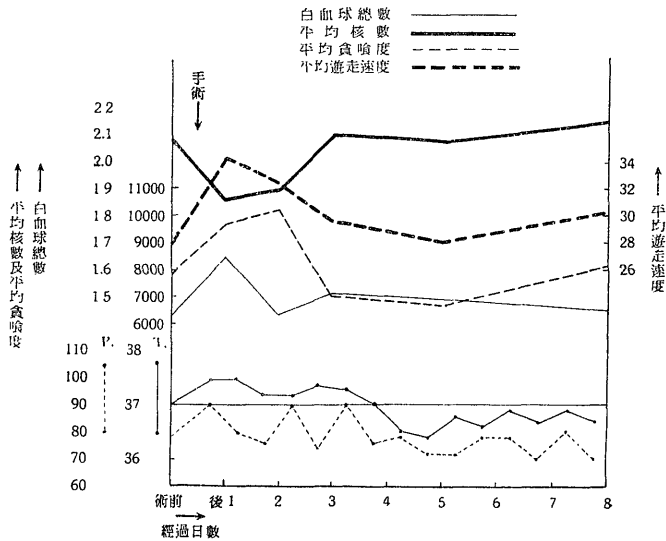
第 2 圖 血液像並白血球機能

第 2 患者. 川本某. 男. 24 歲.



第 3 圖 血液像並白血球機能

第 3 患者 相木某. 女. 23 歲.



赤血球數. 術前赤血球數4.330.000, 術後 1 日目僅ニ増加シ4.360.000トナリ, 3 日目ニハ4.280.000ニ減少セシモ 8 日目ニハ再び増加シ4.370.000トナレリ.

白血球總數. 術前白血球總數 6.360, 術後 1 日目 8.400トナリ僅ニ増加セシモ 2 日目ニハ 6.360ナル正常數ニ復歸シ以後著變ナシ.

各種白血球百分率. 術前中性嗜好球 64.5%, 淋巴球 21.5%, 大單核球 11.5%, 「エ」嗜好球 1.5%, 肥胖

細胞 1.0%ナル出現率ヲ示セリ。術後 1 日目中性嗜好球ノ増加 (81.5%)、淋巴球ノ減少 (10.5%)、大單核球ノ減少 (7.5%)、「エ」嗜好球ノ減少 (0.5%)、肥胖細胞ノ消失ヲ來タセシモ之等百分率ノ變化ハ 2 日目以後略々術前ニ復シ以後著變ナシ。

中性嗜好性白血球核分葉數。術前平均核數 2.08, 術後 1 日目 1.86ニ減少セシモ 2 日目ニハ 1.90ニ増加シ 3 日目ニハ既ニ 2.10ナル正常範圍ニ歸シ以後著變ナシ。

遊走速度。術前平均遊走速度 27.80 μ /分, 術後 1 日目 34.38 μ /分ニ增強, 2 日目ニハ稍々減弱シ 32.43 μ /分トナリ 3 日目ニハ 29.60 μ /分ナル正常範圍ニ復歸シ以後著變ナシ。

貪喰機能。術前平均貪喰度 1.58, 術後増加シ 2 日目ニハ 1.82ナル高値ヲ示セシモ 3 日目ニハ既ニ 1.50ナル正常範圍ニ歸シ以後著變ナシ。

第 4 例

患者 西村某 女 25歳。

1936年 2月 13日入院 - 2月 28日全治退院。

主訴 廻盲部鈍痛並ニ脊椎叩打痛。

現病歴 1 昨年 9 月廻盲部ニ激痛ヲ訴ヘ其ノ際發熱 38.0°Cアリタリ。蟲様突起炎ノ診斷ノモトニ醫療ヲ受ケ輕快セリ。昨年 5 月再び廻盲部ニ激痛ヲ訴ヘタルモ冷罌法ニ依リ約 10 日間ニテ輕快, 以來廻盲部ニ腫瘍ヲ觸レルニ至レリ。更ニ同年 10 月頃再び廻盲部ニ激痛ヲ訴ヘ數日間ニシテ輕快セリ, 然ルニ本年 1 月中旬頃カラ何等認ムベキ原因ナク背部ニ鈍痛ヲ訴ヘルニ至レリ。

現症 廻盲部壓痛並ニ脊椎叩打痛ノ他特記スベキコトナシ。(體溫 36.8°C, 脈搏 70)。

診斷 慢性蟲様突起炎。結核性脊椎炎。

手術 2 月 14 日施行。蟲様突起所見, 蟲様突起ニ輕度ノ充血肥厚アリ。術式, 蟲様突起切除並ニ全縫合。

經過 術後 6 日目拔糸, 術後 14 日目全治退院。

血液所見 (第 4 表及第 4 圖)

赤血球數。術前赤血球數 4.410.000, 術後 1 日目 4.460.000ニ増加, 4 日目 4.450.000ニシテ變化ナク, 8 日目ニハ 4.350.000トナリ術前値ヨリ僅ニ減少セリ。

白血球總數。術前白血球總數 7.400, 術後 1 日目 9.760ニ増加, 2 日目更ニ 11.200ニ増加セシモ 4 日目ニハ 8.040ニ減少シ略々正常數ニ復歸シ以後著變ナシ。

各種白血球百分率。術前, 中性嗜好球 61.5%, 淋巴球 28.0%, 大單核球 9.0%, 「エ」嗜好球 1.0%, 肥胖細胞 0.5%ノ出現率ヲ示セリ。術後, 中性嗜好球ノ増加, 淋巴球, 大單核球並ニ「エ」嗜好球ノ減少ヲ來シ 2 日目ニハ中性嗜好球 72.0%, 淋巴球 21.5%, 大單核球 6.0%, 「エ」嗜好球 0.5%トナリシモ 4 日目以後ハ之等百分率ノ變化ハ漸次舊ニ復セリ。

中性嗜好性白血球核分葉數。術前平均核數 2.20, 術後減少シ 1 日目 1.82, 2 日目更ニ 1.77ニ減少セシモ 4 日目以後ハ増加シ 5 日目ニハ 2.18ナル正常範圍ニ復シ以後著變ナシ。

遊走速度。術前平均遊走速度 28.47 μ /分, 術後 1 日目 33.28 μ /分ニ增強, 2 日目 32.81 μ /分トナリ稍々減弱セシモ, 尙ホ充進状態ナリ。4 日目 30.55 μ /分ナルリ。正常範圍ニ歸シ 5 日目更ニ 27.71 μ /分ニ減弱セシモ 8 日目ニハ再び 30.07 μ /分ナル正常範圍ニ復セリ。

貪喰機能。術前平均貪喰度 1.55, 術後増加シ 2 日目 1.99トナリシモ以後漸減シ 5 日目ニハ 1.63ナル正常範圍ニ歸セリ。

第4表 血液像並 = 白血球機能 第4患者 西村某 女25歳

26

経過日數	赤血球數 (万)	白血球總數	各種白血球百分率							中性嗜好性白血球核移動						中性嗜好性白血球貪喰能							中性嗜好性白血球平均遊走速度 (分-μ)	備考		
			觀察細胞數	中性嗜好	肥胖細胞	「E」嗜好	淋巴球	大單核球	「刺」型細胞及「プラスマ」細胞	觀察細胞數	I 型	II 型	III 型	VI 型	V 型	平均核分葉數	觀察細胞數	— 0	± 1	+	++ 2	+++ 3			++++ 4	+++++ 5
術前	441	7.400	200	61.5	0.5	1.0	28.0	9.0	0	100	16	52	28	4	0	2.20	100	11	39	36	12	2	0	1.55	28.47	6日目抜糸
術後	446	9.760	"	67.5	0.5	0.5	24.0	7.5	0	"	38	42	20	0	0	1.82	"	5	32	47	9	5	2	1.83	33.28	
1	—	11.200	"	72.0	0	0.5	21.5	6.0	0	"	37	50	12	1	0	1.77	"	5	31	37	16	9	2	1.99	32.81	
2	—	8.040	"	68.0	0	2.0	25.0	5.0	0	"	30	43	26	1	0	1.98	"	10	38	34	10	8	0	1.68	30.55	
4	445	8.040	"	68.0	0	2.0	25.0	5.0	0	"	30	43	26	1	0	1.98	"	10	38	34	10	8	0	1.68	30.55	
5	—	6.680	"	59.5	0	4.5	30.0	6.0	0	"	16	50	34	0	0	2.18	"	7	45	32	10	6	0	1.63	27.71	
8	—	6.680	"	59.5	0	4.5	30.0	6.0	0	"	16	50	34	0	0	2.18	"	7	45	32	10	6	0	1.63	27.71	
8	435	7.000	"	62.5	0.5	3.5	28.0	5.5	0	"	20	50	26	4	0	2.14	"	8	39	44	6	3	0	1.57	30.07	

27

第5表 血液像並 = 白血球機能 第5患者 酒野某 女18歳

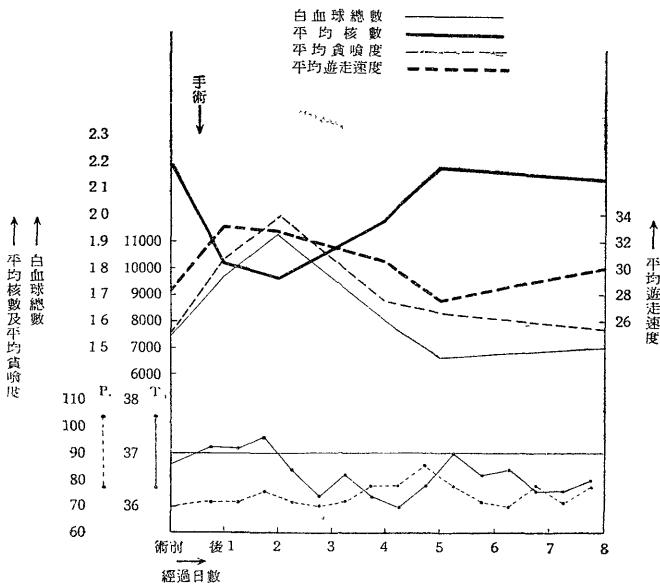
28

経過日數	赤血球數 (万)	白血球總數	各種白血球百分率							中性嗜好性白血球核移動						中性嗜好性白血球貪喰能							中性嗜好性白血球平均遊走速度 (分-μ)	備考		
			觀察細胞數	中性嗜好	肥胖細胞	「E」嗜好	淋巴球	大單核球	「刺」型細胞及「プラスマ」細胞	觀察細胞數	I 型	II 型	III 型	VI 型	V 型	平均核分葉數	觀察細胞數	— 0	± 1	+	++ 2	+++ 3			++++ 4	+++++ 5
術前	450	6.500	200	69.5	0.5	1.5	22.5	6.0	0	100	15	45	36	4	0	2.29	100	5	40	45	8	2	0	1.62	29.32	6日目抜糸
術後	462	11.040	"	80.0	0	0.5	14.0	5.5	0	"	25	45	25	5	0	2.10	"	3	35	42	15	4	1	1.85	35.81	
1	—	9.440	"	75.5	0	1.0	15.5	8.0	0	"	18	53	29	0	0	2.11	"	4	30	54	10	2	0	1.76	33.46	
2	—	7.640	"	69.5	0.5	1.0	24.0	5.0	0	"	19	43	28	9	1	2.30	"	6	46	32	10	6	0	1.64	30.07	
3	458	7.640	"	69.5	0.5	1.0	24.0	5.0	0	"	19	43	28	9	1	2.30	"	6	46	32	10	6	0	1.64	30.07	
4	—	8.000	"	72.5	0.5	2.5	20.0	4.5	0	"	21	35	38	6	0	2.29	"	5	43	33	17	2	0	1.68	28.57	
5	452	7.160	"	66.0	0.5	2.0	25.5	6.0	0	"	14	50	31	5	0	2.27	"	7	37	38	16	2	0	1.59	29.79	
8	—	6.600	"	61.0	2.0	3.0	27.5	6.5	0	"	20	37	34	9	0	2.32	"	10	40	39	10	1	0	1.52	30.16	
14	455	6.880	"	63.0	0.5	5.5	25.5	5.5	0	"	16	46	30	8	0	2.30	"	8	45	35	9	3	0	1.54	28.47	

[26]

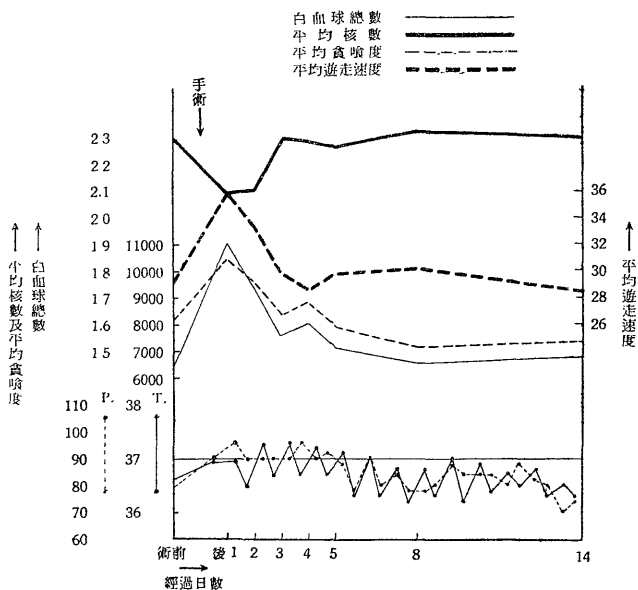
第 4 圖 血液像並白血球機能

第 4 患者 西村某. 女. 25 歲.



第 5 圖 血液像並白血球機能

第 5 患者 酒野某. 女. 18 歲.



第 5 例

患者 酒野某 女 18 歲.

1936 年 3 月 20 日入院— 4 月 3 日全治退院.

主訴 脛盲部鈍痛.

現病歴 約5年前ニ蟲様突起炎ノ發作アリ以來4～5回同様發作ヲ繰返セリ。

此度ノ發作ハ約20日前、朝ラヂオ體操中ニ起リ、疼痛ハ約1週間ニテ輕快セリ。便通1日1回、食慾稍々不進。

現症 廻首部壓痛ノ他特記 スベキコトナシ。(體溫36.6°C, 脈搏80)。

診斷 慢性蟲様突起炎。

手術 3月20日施行。蟲様突起所見、蟲様突起輕度ノ充血。術式、蟲様突起切除並ニ全縫合。

經過 術後、6日目拔糸、14日目 全治退院。

血液所見 (第5表及第5圖)

赤血球數。術前赤血球數4,500,000, 術後1日目4,620,000ニ増加セシモ3日目ニハ4,580,000ニ減少, 5日目4,520,000トナリ略々術前値ニ復シ14日目モ大差ナク4,550,000ヲ示セリ。

白血球總數。術前白血球總數6,500, 術後1日目11,040ニ増加セシモ3日目ニハ7,640ナル正常數ニ歸シ以後著變ナシ。

各種白血球百分率。術前中性嗜好球69.5%, 淋巴球22.5%, 大單核球6.0%, 「エ」嗜好球1.5%, 肥胖細胞0.5%ナル出現率ヲ示セリ。術後1日目中性嗜好球ノ増加(80.0%), 淋巴球ノ減少(12.0%), 大單核球ノ減少(5.5%), 「エ」嗜好球ノ減少(0.5%), 肥胖細胞ノ消失ヲ來セシモ3日目ニハ既ニ之等百分率ノ變化ハ略々舊ニ復セリ。

中性嗜好性白血球核分葉數。術前平均核數2.29, 術後僅ニ減少シ1日目2.10, 2日目2.11トナレド3日目ニハ2.30トナリ術前値ニ復歸セリ。

遊走速度。術前平均遊走速度29.32μ/分, 術後1日目35.81μ/分ニ增強, 2日目稍々減弱セシモ尙ホ33.46μ/分ニシテ充進狀態ヲ示セリ。3日目ニハ30.07μ/分ナル正常範圍ニ復シ以後著變ナシ。

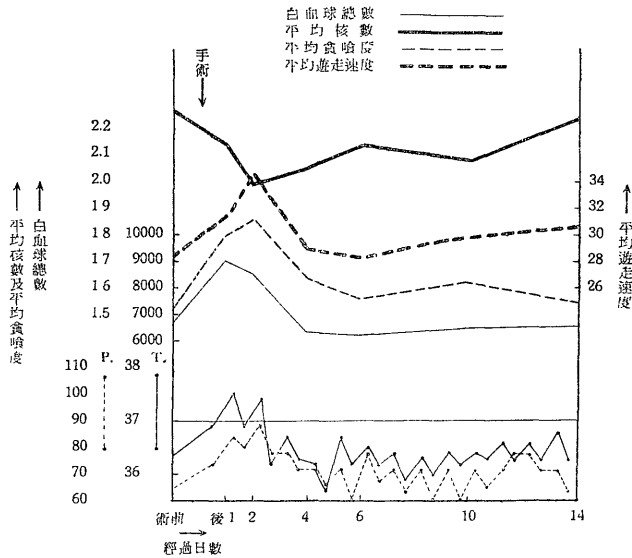
食喰機能。術前平均食喰度1.62, 術後1日目1.85ニ増加セシモ其後ハ減少シ3日目ニハ1.64トナリ略々正常範圍ニ復シ著變ナク經過セリ。

第6表 患者 某 29歳 女 能 機 球 血 液 像 並 血 球 機 能

考 備	中性嗜好性白血球 平均遊走速度 (分-μ)		平均食喰度		中性嗜好性白血球食喰能		中性嗜好性白血球核移動		各種白血球百分率		白血球總數	赤血球數(万)	經 過 日 數				
	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-	+	-					
	28.20	31.48	1.51	1.80	0	5	2.26	1	6.0	38.0	1.5	0.5	200	6,680	435	術前	
	34.59	29.04	1.85	1.64	2	4	2.14	0	5.5	23.5	1.0	0	"	9,000	440	術後1	
	28.38	29.88	1.56	1.62	5	1	1.99	0	5.0	25.0	3.0	0.5	"	8,560	-	2	
	30.64	29.88	1.55	1.62	4	0	2.05	0	4.5	29.5	3.5	0.5	"	6,300	428	4	
					6	0	2.13	1	5.0	33.0	4.0	0	"	6,280	-	6	
					1	0	2.08	1	3.0	35.5	7.5	0	"	6,560	-	10	
					0	0	2.24	0	5.0	35.0	7.0	0	"	6,600	430	14	
					0	0		0	0	0	0	0	100				
					8	47		18	18	47	22	29	27	24	29	20	
					6	40		22	22	47	47	29	24	24	29	20	
					5	33		29	29	45	45	27	24	24	29	20	
					43	46		27	27	47	47	24	24	24	29	20	
					32	39		24	24	45	45	29	22	22	22	20	
					10	34		29	29	42	42	22	22	22	22	20	
					15	37		29	29	42	42	22	22	22	22	20	
					9	41		20	20	45	45	26	26	26	26	20	
					11	38		20	20	45	45	26	26	26	26	20	
					33	47		100	100	100	100	100	100	100	100	100	
					30	40		"	"	"	"	"	"	"	"	"	
					43	33		"	"	"	"	"	"	"	"	"	
					10	32		"	"	"	"	"	"	"	"	"	
					15	34		"	"	"	"	"	"	"	"	"	
					9	37		"	"	"	"	"	"	"	"	"	
					7	37		"	"	"	"	"	"	"	"	"	
					11	41		"	"	"	"	"	"	"	"	"	
					9	41		"	"	"	"	"	"	"	"	"	

第 6 圖 血液像並白血球機能

第 6 患者 齋藤某。女。29 歳。



第 6 例

患者 齋藤某 女 29 歳。

1936 年 3 月 30 日入院— 4 月 13 日全治退院。

主訴 廻盲部鈍痛。

現病歴 昨年 1 月以來數回ニ亘リ腹部疼痛ヲ訴ヘ同年 8 月ニ蟲様突起炎ト診斷サレタリ。本年 3 月 8 日再ビ廻盲部並ニ臍周圍部ニ疼痛ヲ訴ヘタルモ數日ニシテ輕快セリ。便通 4 日ニ 1 回(少量)。

現症 廻盲部壓痛ノ他特記スベキコトナシ。(體溫 36.4°C, 脈搏 65)。

診斷 慢性蟲様突起炎。

手術 3 月 30 日施行。蟲様突起所見，蟲様突起充血肥厚セリ。術式，蟲様突起切除並ニ全縫合。

經過 術後 6 日目 拔糸，14 日目 全治退院。

血液所見 (第 6 表及第 6 圖)

赤血球數。術前赤血球數 4.350.000，術後 1 日目 4.400.000 トナリ 増加セシモ 4 日目ニハ 4.280.000 ニ減少シ，14 日目ニハ再ビ僅ニ増加シ 4.300.000 トナレリ。

白血球總數。術前白血球總數 6.680，術後 1 日目 9.000 ニ増加セシモ 4 日目ニハ 6.300 ナル 正常數ニ復シ以後著變ナシ。

各種白血球百分率。術前，中性嗜好球 54.0%，淋巴球 38.0%，大單核球 6.0%，「エ」嗜好球 1.5%，肥胖細胞 0.5% ノ出現率ヲ示セリ。術後 1 日目中性嗜好球ノ増加(70.0%)，淋巴球ノ減少(23.5%)，大單核球ノ減少(5.5%)，「エ」嗜好球ノ減少(1.0%)，肥胖細胞ノ消失ヲ來セシモ，之等ノ變化ハ漸次舊ニ復シ 4 日目ニハ略々正常百分率トナリ其後ハ淋巴球及「エ」嗜好球比較的增加セリ。

中性嗜好性白血球核分葉數。術前平均核數 2.26，術後減少シ 2 日目 1.99 トナリシモ以後漸次増加シ 4 日目ニハ 2.05 ナル 正常範圍ニ歸シ 14 日目ニハ更ニ増加シ 2.24 トナリ略々術前値ニ歸セリ。

遊走速度。術前平均遊走速度 28.20 μ /分，術後増強シ 2 日目 34.59 μ /分ナル 亢進ヲ來セシモ，4 日目ニ

ハ 29.04 μ /分トナリ正常範圍ニ復歸シ以後著變ナシ。

貪喰機能. 術前平均貪喰度 1.51, 術後 1 日目 1.80ニ増加, 2 日目更ニ 1.85ニ増加セシモ 4 日目ニハ 1.64ナル正常範圍ニ復歸セリ。

茲ニ超生體染色標本ニ於ケル形態的變化ヲ一括シテ述ベンニ, 術前. 細胞ノ形態ニ異常ヲ認メズ. 術後, 一時 (1 日-2 日)「ノイトラル赤ニ依ル顆粒ノ染色稍々不十分トナリシヲ認メシ他特記スベキ變化ナシ。

第 3 章 總括並ニ考按

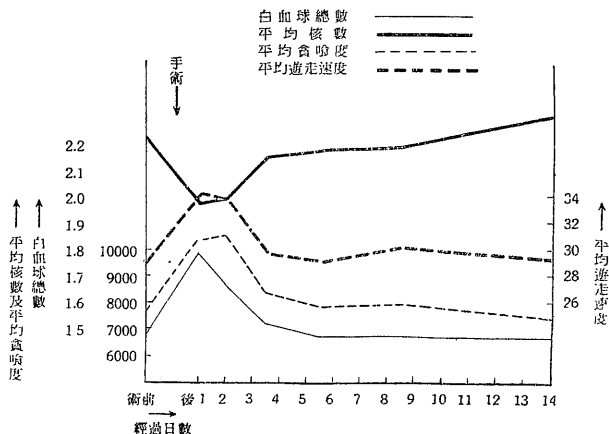
前章ニ述ベシ 6 名ノ慢性蟲様突起炎患者ハ蟲様突起炎ノ發作ヲ數回ニ亙リ經驗セシモ, 其ノ都度自然的治癒ニ向ヒ大事ニ至ラザリシモノニシテ, 外來所見トシテハ唯廻盲部ニ輕度ノ抵抗ヲ感ズルカ或ハ輕度ノ壓痛ヲ訴ヘル程度ニシテ體溫, 脈搏ハ勿論, 其他ノ一般狀態モ既ニ常態ニ復シ特記スベキコトナカリキ. 之即チ蟲様突起炎ノ間歇期手術例ナリ. 之ガ手術所見トシテハ唯蟲様突起ノ輕度ノ充血或ハ肥厚ヲ認メタルニ過ギズ。

今術前並ニ術後ニ於ケル白血球總數, 白血球百分率, 平均核分葉數, 平均遊走速度並ニ平均貪喰度ノ總平均ヲ示セバ第 7 表及ビ第 7, 8 圖ノ如ク,

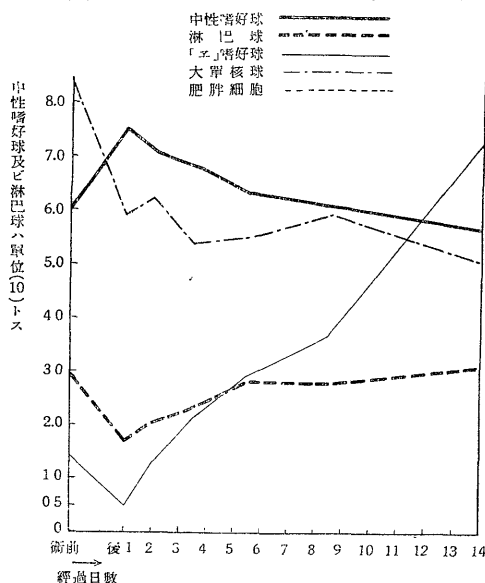
第 7 表 術前, 術後ニ於ケル赤血球數, 白血球總數, 各種白血球百分率, 平均核分葉數, 平均貪喰度及ビ平均遊走速度ノ患者 6 名ニ就テノ總平均表

経過日數	赤血球數 (万)	白血球總數	各種白血球百分率					平核分葉均數	平均貪喰度	平遊(分)走速(均度)
			中嗜性	肥細胞	「好エ」嗜球	淋巴球	大核單球			
術前	446	6.743	61.6	0.6	1.4	28.1	8.3	2.22	1.56	28.94
術後 1	451	9.800	75.6	0.1	0.5	17.9	5.9	1.98	1.83	34.04
2	—	8.767	71.9	0.1	1.3	20.8	6.2	1.99	1.85	33.83
3-4	445	7.234	68.5	0.3	2.1	23.6	5.4	2.15	1.63	29.78
5-6	441	6.747	63.1	0.3	2.9	28.2	5.5	2.17	1.58	29.09
7-10	444	6.743	61.3	0.9	3.7	28.2	5.9	2.19	1.59	30.10
11-14	443	6.740	58.0	0.3	6.3	30.3	5.3	2.27	1.55	29.56

第 7 圖 第 7 表ノ圖示



第 8 圖 第 7 表(各種白血球百分率)ノ圖示



前章ノ血液所見ヲ總括スレバ次ノ如シ。

1. 赤血球數

術前赤血球數最小 4.330.000—最大 4.600.000，平均 4.460.000 ニシテ正常數ニ比シ稍々減少セリ。

術後一様ニ第 1 日目増加(平均 4.510.000)セシモ其後ハ減少シ 3 日—4 日目ニハ略々術前値ニ歸シ以後著變ナシ。

2. 白血球總數

術前白血球總數最低 6.320—最高 7.400，平均 6.743 ニシテ正常數ヲ示セリ。

術後 1 日—2 日目白血球總數 8.400—11.200 程度ノ増加ヲ來セシモ，之ヲ 6 例ノ平均カラ見レバ 1 日目平均 9.800，2 日目平均 8.767 ニシテ輕度ノ増加ヲ示シ 3 日—4 日目ニハ平均 7.234 ニ減ジ，既ニ正常數ニ復セリ。

3. 各種白血球百分率

術前. 中性嗜好球 54.0%—69.5%，平均 61.6%。リンパ球 21.5%—38.0%，平均 28.1%。大單核球 6.0%—11.5%，平均 8.3%。「エ」嗜好球 1.0%—2.0%，平均 1.4%。肥胖細胞 0.5%—1.0%，平均 0.6%ニシテ略々正常百分率ヲ示スモ大單核球ハ正常値ニ比シ増加セリ。

術後一時(1 日—2 日目)中性嗜好球ノ増加。リンパ球，「エ」嗜好球，大單核球ノ減少。肥胖細胞ノ減少或ハ消失ヲ來セシモ 3 日—4 日目以後ニ於テハ之等百分率ノ變化ハ漸次舊ニ復セリ。

4. 中性嗜好性白血球核分葉數

術前平均核數最小 2.08—最大 2.31，平均 2.22 ニシテ正常範圍 (2.00—2.30) ニアリタリ。術後 1 日—2 日目平均核數減少シ其ノ程度ハ 2.10—1.77 ナリ。之ヲ 6 例ノ平均ヨリ見レバ 1

日目 1.98, 2 日目 1.99 = シテ正常範圍ヲ僅ニ脱セシ程度ノ左方移動ナリ, 而シテ 3 日—4 日目 = ハ早クモ平均 2.15 = 増加シ正常範圍ニ復歸セリ. 其後ハ更ニ増加シ 14 日目 = ハ平均 2.27 トナレリ.

5. 白血球機能

(イ) 遊走速度

術前平均遊走速度最小 $27.80\mu/\text{分}$, 一最大 $30.07\mu/\text{分}$, 平均 $28.94\mu/\text{分}$ = シテ遊走速度ハ正常範圍 ($28.00\mu/\text{分}$ — $30.00\mu/\text{分}$) = アリタリ.

術後 1 日或ハ 2 日目 = $33.28\mu/\text{分}$ — $36.38\mu/\text{分}$ 程度ノ増強ヲ來セリ. 即チ全例ノ平均ヨリ見レバ術後遊走速度増強シ 1 日目最高値 (平均 $34.04\mu/\text{分}$) ヲ示シ, 2 日目稍々減弱セシモ尙ホ充進状態 (平均 $33.83\mu/\text{分}$) ヲ保チ 3 日—4 日目 = 正常範圍 (平均 $29.78\mu/\text{分}$) = 歸シ以後著變ナシ.

此ノ際, 細胞ノ形態的變化トシテハ唯術後一時 (1 日—2 日) 「ノイトラル赤 = 依ル顆粒ノ染色稍々不十分トナリシヲ認メシ他特記スベキコトナカリキ.

(ロ) 貪食機能

術前平均貪食度最小 1.49—最大 1.63, 平均 1.56 = シテ貪食機能ハ正常範圍 (1.50—1.60 前後) = アリタリ.

術後貪食機能充進シ 1 日目或ハ 2 日目 = 最高値ヲ示シ其ノ程度ハ 1.82—1.99 ナリ. 全例ノ平均ヨリ見レバ 2 日目最高値 (平均 1.85) = 達シ, 3 日—4 日目 = ハ早クモ平均 1.63 = 減少シ略々正常範圍ニ復歸シ以後著變ナシ.

今慢性蟲様突起炎患者ノ血液像ニ關スル文献ヲ涉獵スルニ, W. Ssamoiolo ハ慢性蟲様突起炎患者 50 例 = 就キ Arneth 氏核移動ヲ檢シテ曰ク, 發作後ハ Arneth 氏核移動ハ永ク正常ニ復セズ. 而シテ第 I 型ノ増加アル場合ハ蟲様突起ノ強キ癒着ト構造ノ變化ヲ認メ Arneth 氏核移動ノ檢索ハ蟲様突起ノ病變ヲ割合正シク指示スト.

G. A. Friedmann ハ蟲様突起ニ急性病變アル場合ニハ白血球增多症並ニ多核白血球ノ増加ヲ認ムルモ, 慢性疾患ニアリテハ之ヲ認メズ, 唯百分率中大單核球並ニ移行型細胞ノ増加アルヲ認メタリ.

本邦ニ於テモ下妻氏ハ間歇性蟲様突起炎患者ノ血液像ヲ檢シ核移動ニ就テハ大體 Ssamoiolo ノ稱スル如ク第 I 型ノ増加 (14%) ヲ認メタルモ, 癒着ト第 I 型ノ増加ニ就テハ一致セル結果ヲ得ズ, 仍テ Arneth 氏血液像ノ變化ニ依リテハ蟲様突起ノ癒着及ビ構造ノ變化ヲ窺知スルヲ得ズト云ヘリ.

余ノ實驗成績ヲ見ルニ百分率ノ變化中大單核球ノ増加ヲ認メ Friedmann ノ言ニ一致セシモ, 平均核數ハ正常範圍ニアリテ Ssamoiolo, 下妻ノ云ヘル如キ核型左方移動ハ之ヲ認メザリキ.

次ニ手術後ニ於ケル血液像ノ變化トシテハ白血球總數ノ増加, 百分率ニ於テハ中性嗜好球ノ増加, 淋巴球ノ減少及ビ「エ」嗜好球ノ減少或ハ消失ヲ認メ, 且ツ中性嗜好性白血球ノ核型

左方移動ヲ認メタリ、之ヲ文獻ニ徵スルニ G. Schultz ガ無菌の手術後白血球數ノ増加ヲ初メテ唱導シテ以來、Jochmann, Busse, O. Stahl, W. Löhr, A. Scott, Jung, J. Saidl etc. 等シテ手術後ノ白血球增多症ヲ認メ、Busse, W. Löhr, Jung, etc. ハ百分率ノ變化トシテ中性嗜好球ノ増加、淋巴球ノ減少並ニ「エ」嗜好球ノ減少或ハ消失ヲ認メタリ。而シテ核移動ニ關シテハ Busse, W. Löhr, K. Sommer, Jung, J. Saidl etc. 等シテ手術後ニ於ケル一過性ノ核型左方移動ヲ認メ大體余ノ成績ト一致セリ。

更ニ術後ニ於ケル核型移動ト白血球機能トヲ相關聯シテ考察センニ、手術後一過性ノ核型左方移動並ニ白血球機能ノ充進ヲ來シ、且ツ此ノ際超生體染色標本ニ於テハ何等細胞ノ變性現象ヲ認メザリシハ、之即チ杉山教授ノ進行性左方移動ニシテ、斯ル術後ニ於ケル進行性左方移動ハ前報迄ニ取扱ヒシ病的場合ニハ余ノ全然遭遇セザリシモノナルモ、既ニ山下氏ハ家兎ノ施灸後更ニ田村氏ハ人體ニ適量ノ灸ヲ施行セン場合ニ夫々之ヲ認メタリ。

次ニ術後ノ血液所見ト臨床經過トニ就キ考フルニ核型左方移動並ニ白血球機能ノ充進ハ、術後1日—2日目最モ顯著ニシテ3日—4日目以後ハ早くモ舊ニ復シ、之等ノ變化ハヨク術後ニ於ケル生理的發熱ト一致セルヲ知レリ。從ツテ斯ル進行性左方移動ハ生理的發熱ノ原因タル損傷組織並ニ血球ノ破壞等ヨリ來ル蛋白分解産物ノ吸收ガ同時ニ又骨髓ヲモ刺戟シ骨髓ハ生理的機能ヲ具備セル核型少キ幼若細胞ヲ多ク産出スルニ因ルモノナラント思考ス。

結 論

余ハ間歇期手術ヲ施行セン蟲様突起炎患者6名ニ就キ術前術後ニ於ケル血液所見即チ赤血球數、白血球總數、各種白血球百分率及ビ核型移動ヲ檢シ併セテ白血球遊走速度並ニ貪喰機能ヲ檢索シ次ノ結果ヲ得タリ。

1. 白血球機能

(イ) 遊走速度

術前 平均遊走速度最小27.80 μ /分—最大30.07 μ /分、平均28.94 μ /分ニシテ遊走速度ハ正常範圍(28.00 μ /分—30.00 μ /分)ニアリタリ。

術後 遊走速度増強シ1日目平均34.04 μ /分トナリ最高値ヲ示シ2日目モ、尙ホ平均33.83 μ /分ニシテ充進状態ヲ續ケシモ、3日—4日目ニハ早くモ平均29.78 μ /分ナル正常範圍ニ復歸シ以後著變ナシ。此ノ際細胞ノ形態ニ就キテハ術後一時(1日—2日)「ノイトラル赤」ニ依ル顆粒ノ染色稍々不十分トナリシヲ認メシ他特記スベキコトナシ。

(ロ) 貪喰機能

術前 平均貪喰度最小1.49—最大1.63、平均1.56ニシテ貪喰機能モ亦正常範圍(1.50—1.60)ニアリタリ。

術後 貪喰機能充進シ2日目平均1.85ニ達シ最高値ヲ示シ3日—4日目ニハ平均1.63トナリ既ニ略々正常範圍ニ復歸シ以後著變ナク經過セリ。

2. 中性嗜好性白血球核分葉數

術前 平均核數最小 2.08—最大 2.31, 平均 2.22 = シテ核分葉數ハ正常範圍 (2.00—2.30) = アリタリ.

術後 平均核數減少シ 1 日目平均 1.98, 2 日目平均 1.99 トナリ輕度ノ核型左方移動ヲ來セシモ 3 日—4 日目 = ハ平均 2.15 トナリ既 = 正常範圍 = 復歸セリ. 即チ術後 = 於ケル核型左方移動ハ所謂杉山教授ノ進行性左方移動ナルベシ.

3. 白血球總數

術前 白血球總數最低 6,320—最高 7,400, 平均 6,743 = シテ正常數ヲ示セリ.

術後 白血球總數輕度ノ増加ヲ來シ 1 日目平均 9,800, 2 日目平均 8,767 ナリシモ 3 日—4 日目 = ハ平均 7,234 ナル正常數 = 減ジ以後著變ナシ.

4. 各種白血球百分率

術前 中性嗜好球 54.0%—69.5%, 平均 61.6%. 淋巴球 21.5%—38.0%, 平均 28.1%, 大單核球 6.0%—11.5%, 平均 8.3%. 「エ」嗜好球 1.0%—2.0%, 平均 1.4%. 肥胖細胞 0.5%—1.0%, 平均 0.6% = シテ略々正常百分率ヲ示スモ, 大單核球ハ正常 = 比シ稍々増加セリ.

術後 1 日—2 日目中性嗜好球ノ増加, 淋巴球, 「エ」嗜好球, 肥胖細胞及ビ大單核球ノ減少ヲ來シ, 3 日—4 日目以後之等ノ變化ハ漸次正常 = 復セリ.

5. 赤血球數

術前 赤血球數最小 4,330,000—最大 4,600,000, 平均 4,460,000 = シテ正常數 = 比シ稍々減少セリ.

術後 1 日目僅 = 増加シ平均 4,510,000 トナリシモ, 3 日—4 日目 = ハ略々術前値 = 復歸シ以後著變ナシ.

要之慢性蟲様突起炎患者 = アリテハ輕微ナル赤血球數ノ減少及ビ百分率中大單核球ノ増加ヲ認メシ外, 其他ノ血液所見 (白血球總數, 核分葉數及ビ白血球機能) = ハ變化ナク正常ナリキ. 手術後 = 於テハ輕度ノ白血球增多症及ビ核型左方移動ヲ來スト共 = 白血球機能ノ充進ヲ來シ所謂進行性左方移動ヲ招來セリ而シテ百分率 = アリテハ中性嗜好球ノ増加, 淋巴球及ビ「エ」嗜好球ノ減少ヲ來センモ, 之等血液諸變化ハ一過性 = シテ術後 = 於ケル生理的發熱ノ消失ト共 = 速 = 恢復セリ.

主 要 文 獻

- 1) **Arneth, J.** : Die qualitative Blutlehre. Leipzig, 1920.
- 2) **Allen, E.** : Changes in blood following Op. Arch. of Surg. Vol. 15, S. 254—264, 1927.
- 3) **鮎川**, 外科手術ノ血液ニ及ボス影響 = 就テ. 大阪醫學會雜誌, 第33卷, 2273頁.
- 4) **Busse, W.** : Die Leukocytose, eine Schutzvorrichtung des Körpers gegen Infektion. Archiv f. Gynekologie. Bd. 85, S. 1, 1908.
- 5) **Becker, R. and Schütz, E.** : Postoperative regeneration of erythrocytes. Bruns' Beitr. z. klin. Chir. 143: 637—651, 1928.
- 6) **Friedmann, G. A.** : Transitions Leucocytosis and it's Diagnostic Value in Chro. Appendicitis. Am. Journ. of med. Sciences. Vol. 158, No. 4, S. 545, 1919.
- 7) **Jung**,

H. : Über die Verwertbarkeit des postoperativen Differentialblutbildes der Leukozyten. Zeitschr. für Geb. u. Gynäkologie. Bd. 89, S. 671, 1926. 8) **Löhr, W.**: Der Einfluss von Chirurgischen Operationen u. Erkrankungen auf den Gesamtorganismus, insbesondere auf das Blut. Arch. f. klin. Chir. Bd. 121, S. 390, 1922. 9) **茂木藏之助**, 外科各論, Bd. 3. 10) **Naegeli, O.**: Blutkrankheiten u. Blutdiagnostik. 3. Aufl. 11) **中山榮之助**, 婦人科領域疾患開腹手術後ニ於ケル血液形態的變化(第2編). 日本婦人科學會雜誌, 第27卷, 上半期, 1285頁. 12) **小川蕃**, 外科各論, 下卷. 13) **Reznikoff, P.**: Inconvalescence from infektiöns disease. Am. J. M. Sc. Vol. 184: 167—184, 1932. 14) **Saidl, J.**: Blutbild bei Gynäkologischen Leiden. Berichte die gesamte Gy. u. Geburtshilfe. Bd. 11, S. 399, 1927. 15) **Schultz, G.**: Experimentelle Untersuchungen über das Vorkommen und die diagnostische Bedeutung der Leukocytose. Dtsch. Archiv. f. klin. Med. Bd. 51, S. 234, 1893. 16) **Scott, A.**: Leucocytose als Folge gynäkologischen Operationen. Surg. Gynäkologie Obst. Bd. 49, S. 671, 1926. 17) **Stahl, O.**: Über die Postoperative Leukozytose. Dtsch. med. Woch. Nr. 51, S. 1550, 1921. 18) **Sommer, K.**: Das Haemogramm in der Gynäkologie. Zeitschr. f. Geb. u. Gyn. Bd. 88, S. 658, 1925. 19) **杉山繁輝**, 細胞ノ遊走速度測定法. 十全會雜誌, 第34卷, 9號, 昭4. 20) 同人, 白血球機能ヨリ見タル「アルネット氏核移動ノ本態ニ就テ. 北越醫學會雜誌, 46年, 昭6年. 21) 同人, 諸種疾病ニ於ケル血液像ノ總括表. 十全會雜誌, 第38卷, 9號. 22) **下妻堅太郎**, 蟲様垂炎ニ於ケル「アーネス氏血液像ニ就テ. 南滿醫學會雜誌, 第9卷, 257頁. 23) **山下清吉**, 諸種ノ實驗的疾患者ニ於ケル白血球ノ機能並ニ形態(其5, 灸及ビ火傷ニ於ケル白血球機能ノ變化). 十全會雜誌, 37卷, 8號, 昭7. 24) **田村正一**, 人體ニ於ケル施灸ガ白血球機能ニ及ボス影響(其1, 艾量ト其作用トノ關係). 十全會雜誌, 39卷, 11號, 昭9. 25) **渡邊四郎**, 多核白血球ノ核分葉數ト遊走速度トノ相關々係ニ就テ. 十全會雜誌, 34卷, 11號, 昭11.